

劔仁美の道徳科（第5学年）研究計画

1 本研究で目指す子ども

平成30年度から道徳の時間は、「特別の教科 道徳」として教科化される。「特別の教科 道徳」で求められるのは、道徳性(道徳的な判断力, 道徳的な心情, 道徳的な実践意欲と態度)の育成である。改訂された学習指導要領では、道徳性の順序が入れ替わり道徳的な判断力が先に明記されることとなった。本研究では、道徳的な判断力の育成を重視する。

教科化では、授業の質的改善が求められ「読み取り道徳」から「考える道徳」への転換が叫ばれている。「考える」という行為は、「自我」と話し合うことであり、対話的なものである。対話をするとは、自分の考えを確認し、よりよい視点を発見するために不可欠なものである。対話を通して、道徳的な判断力は育成できるのではないかと考える。なぜなら、対話によって一面的だった自分の考えは変化し、多面的な考え方ができるようになるからである。これにより、判断を迫られたときには多面的な視点で判断できるようになる。

これまで、対話を促し、多面的に考えられるような働き掛けをしてきた。しかし、子どもは自分の考えに固執する傾向にあり、判断場面で変容(元々の考えを広げたり深めたりする姿)することは少なかった。それは、教師が直接に子どもの考えをつなげて対話をさせようとしていたことに問題がある。

そこで、次のように授業を改善する。

○ 異なる考えをもつ者同士で「哲学対話」をさせる。

「哲学対話」は、「探究の対話」と言われるアメリカのマシュー・リップマンが開発したものであり、対話をすることによって思考を深めていく一つの手法である。この手法を取り入れつつ、道徳科としての対話の在り方を次のように定義する。「教材等の問題場面に出会った子どもの初発の考えに基づき、道徳的価値の理解や問題解決のための判断に向けて探究する問いを決めて、一定のルール(右図)の下に10人程度で話し合う」。一斉では自己開示がしにくい。また少人数では、人間関係に左右されやすい。ルールの下で10人程度で対話することで、自分の考えを表出し、他者の考えを聴くことで自分の考えを見直したり、考え直したりできるようになる。

このようにすることで、**異なる考えをもつ者同士で対話することを通して、よりよい判断をする子ども**を目指す。「よりよい判断をする子ども」とは、問題に合った行為を判断し、元々の考えを広げたり深めたりしている子どもである。判断した理由には、深まった道徳的価値の理解が表れる。

☆ルール☆

- ・何を言ってもいい。
- ・人を傷つけることは言わない。
- ・発言しないでだまって聞いて考えているだけでもいい。
- ・お互いに問いを投げかけ合うことが大切。
- ・外からの知識にたよらず、自分の思ったことを自分の経験などにそくして、自分の言葉で話す。
- ・あせらず、ゆっくりとしゃべって話す。
- ・意見、話題、問いが途中で変わってもいい。
- ・話がまとまらなくてもいい。
- ・みんなでだまっていてもいい。
- ・最後に結論を出さなくてもいい。



2 本研究で育成する資質・能力

①知識・技能	②思考力・判断力・表現力	③態度
○道徳的価値の理解	○これまでの自分の経験やそのときの考え方、感じ方を想起して考える力 ○相手の立場になって気持ちを考える力 ○自分の考えと友達の考えを大切にして「自分はどうか」を考える力	○よりよい自分を求めて自己の確立を目指すとともに、一人一人が他者と共に心を通じ合わせて生きようとする態度

3 主張する働き掛け

子どもは、これまでの自分の経験から様々な考え方や感じ方をもっており、それは個人で異なる。子どもに、教材文を提示する。提示する教材文は、主人公が行為に迷う場面までである。教材の内容を知り「この後、主人公はどうするだろう」と考えている子どもに「自分だったらどうするか」と行為と理由を問う。ワークシートに記述させた後、数名を指名し発表させる。子どもは、教材の場面において判断し行為と理由を考えている状態である(C0)。

このような子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け1

疑問に思うこと、みんなで考えたいこととその理由とを問う。

問いをもたせるための働き掛けである。

「自分だったらどうするか」という行為と理由をもっている子どもに、疑問に思うことを問い、付箋に記述させる。付箋に記述させるのは、疑問をもっている全員の思いを表出させるためである。書かせた付箋は、提出させPost-itPlusに取り込む。取り込んだものを、子どものタブレット端末(グループに1台)に送る。子どもは、みんなの疑問を見て自分と異なる疑問をもっている友達がいることに気付く。

次に、みんなで考えたいことと理由とを問う。子どもは、Post-itPlusで示されたみんなの疑問

を比較して共通点を考える(ツール活用能力)。そして、みんなで考えたいことを考える。みんなで考えたいことを考えさせることで、個々の疑問からみんなの問いが創り出される。

働き掛け2

考えるための方法と理由を問う。

道徳的価値を多面的・多角的にとらえるという「見方・考え方」を働かせ、解決のための見通しをもたせるための働き掛けである。

みんなで考えたいことを考えた子どもに、考えるための方法を問う。「みんなで話し合う」「グループで話し合う」「哲学対話で話し合う」の中から選択させる。このとき、理由も言うように指示する。子どもは、異なる意見も互いに尊重し合って聴くことのできる「哲学対話の方法で考えていけばよい。すぐには答えが出ないかもしれないし、色々な人の考えを聴いてよく考えられるから」と課題を解決するための見通しをもつ。

働き掛け3

異なる考えをもつ者同士でグループを組み、「哲学対話」の場を設定する。

協働性を発揮して、思考・判断・表現していくことができるようにするための働き掛けである。

みんなで考えたいことをもっている子どもに「哲学対話」の場を設定する。1つのグループに、異なる考えをもつ者がいるように編成する。異なる考えとは、「行為が異なる」「理由が異なる」のいずれかとする。対話の始めは、各グループでみんなで考えたいことの中から選択させる。選択は多数決で決定させる。対話を通して「どうするかを選び方」だけでなく、子ども自身で「どうするかの意味」そのものを問い、考えを広げさせていく。「哲学対話」のルールの下で、子どもは対話の中で、これまでの経験を持ち出す。(①知識・技能、②思考力・判断力・表現力)。対話を通して、道徳的価値を多面的・多角的にとらえるという「見方・考え方」を働かせ、自分自身のことを考え、相手のことを考えることで考えは広がり深まる(協働性)。

対話の時間は、二度設定する。一度目は10分間。子どもは「もう少し話し合いたい」と考える。「みんなで考えたいこと」の一つを話し合い、さらにグループで話し合いたいことが見つかる。そこで、各グループでどのような考えが出されたのか、代表者による振り返りを行う。これにより、他のグループで行われた対話の内容を知ることができる。このとき、もう少し話したいことについても言うように指示する。その後、再度、対話をする時間を設定する。時間は20分間。子どもは、新たに考えたいことをグループで設定する。これが新たな問いとなる。対話の後には、振り返りを行い、対話で考えたことを共有できるようにする。二度の対話により、個々の考えが広がり深まる。一面的だった考え方が、多面的になるのである。

働き掛け4

「哲学対話」を通して、考えたことを問う。

対話で考えたことを生かし、よりよい判断をさせるための働き掛けである。

「哲学対話」の振り返りを行った子どもに、『「哲学対話」を通して考えたことは何か』と問いワークシートに記述させる。このとき、その考えはどこからきたのかについても記述するように指示する。子どもは、道徳的価値を多面的・多角的にとらえるという「見方・考え方」を働かせ、気付いたことや分かったことを記述する。そこには、「これまでの自分の考えでは思いもなかったこと」「深く考えたこと」などが記述される(①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③態度)。そして、理由には、友達の考えが挙げられる。このようにして、異なる考えをもつ者同士で対話することを通して、よりよい判断をする子ども(Cn)となる。

働き掛け5

考えることができた理由を問う。

様々な資質・能力を発揮して、課題解決できたことを自覚させるための働き掛けである。

課題を解決した子どもに「考えることができたのはなぜか」と問う。子どもは、「友達と一緒に考えたから」(協働性)『「哲学対話』という方法で考えたから』と資質・能力を発揮したことを自覚する。

4 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定したCnになったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した「見方・考え方」を働かせることができたか。
- ③ 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を発揮することができたか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け4を受けて、自分の考えと、問いや友達の考えを関係付けて判断しているかどうかを記述から検証する。
- ② 働き掛け2・3・4を受けて、資質・能力を発揮したかどうかを発言と記述から検証する。
- ③ 働き掛けを受けて、想定した資質・能力を発揮することができたかを発言と記述から検証する。

5 年間の授業計画

- (1) 指定研究授業 (6月) 「広い心って？」(2時間)
- (2) 中間検討会 (9月) 「公共の精神」(2時間)
- (3) 初等教育研究会 (2月) 「よりよく生きる喜び」(2時間)